

年号：1991年

月日：6月3日

災害名：雲仙岳噴火〔雲仙岳火砕流〕の概要

### 長崎県南島原市位置図



出典：国土地理院

### 【平成の雲仙普賢岳噴火の概要】

- ・平成2年（1990年）11月17日に始まった雲仙普賢岳の噴火活動は平成7年（1995年）5月まで4年半もの間続いた。
- ・この噴火活動は、連続的な溶岩ドームの成長と、溶岩ドームの部分的な崩壊により発生した火砕流が特徴であった。
- ・火砕流は流下速度が時速 100 km と速く、温度は数百～千度近くと非常に高温である。
- ・島原市では人命を守るため、初めて市街地に警戒区域を設定した。
- ・この火山災害による土石流の発生回数は62回、火砕流の発生は9,432回に達し、死者・行方不明者44人、負傷者12人、建物被害2,511棟、被害額2,299億円の大災害となった。



▲噴火活動中の雲仙岳山頂

出典：国土交通省 雲仙復興事務所 HP



▲山を駆け下る火砕流



▲市内に迫る勢いの火砕流



▲火砕流で焼けた地域



▲土石流被害を受けた家屋



▲土石流の勢いで流された橋



▲土石流の被害を受けた家畜

出典：国土交通省 雲仙復興事務所 HP

**【火砕流の熱風で焼けた旧大野木場小学校・焼け残ったイチヨウの木：南島原市深江町】**

- ・平成3年9月15日18時54分に発生した大火砕流により、付近の民家等153棟とともに大野木場小学校は全焼した。南島原市深江町では、避難が徹底していたため人的被害はなかったものの、自然災害の脅威を継承する火砕流遺構、砂防学習拠点の一つとして旧小学校を保存している。
- ・国土交通省所管の大野木場砂防みらい館も併設されており、写真・パネル等による災害の状況・復興の様子などが見学できる。



▲旧大野木場小学校の位置（南島原市深江町）



▲旧大野木場小学校・大野木場砂防みらい館から雲仙普賢岳を望む



▲被災当時の状況を保存した小学校内部



▲火砕流の熱風で焼けたタイヤの遊具



▲焼け残ったイチヨウの木

### 【土石流で被災した家屋を当時のまま保存：南島原市深江町】

- ・「道の駅」みずなし本陣ふかえ内にある「土石流被災家屋保存公園」では、平成4年8月9日の土石流被害に遭った被災家屋11棟を当時の状況のまま保存(1棟は移築)している。
- ・公園周辺は約2.8~3mほど土石流の土砂物で埋没したが、土砂物の流れてくるスピードが緩やかだったため、家屋が倒壊せず土砂物に埋もれた。
- ・被災家屋の住民は平成3年5月15日に避難勧告を受け、避難していたため、人的被害はなかった。
- ・屋外保存家屋は24時間見学可能(ただし、テント内保存家屋は9:00~17:00の開館時間内に見学可能)



▲土石流被災家屋保存公園の位置(南島原市深江町)



▲屋外保存家屋から雲仙普賢岳を望む



▲屋根まで土砂物で埋まった保存家屋



▲テント内の保存家屋



▲土石流被害を後世に伝える保存家屋

### 【ふかえ桜パーク：南島原市深江町】

- ・雲仙普賢岳の噴火では、山頂に形成された溶岩ドームが一気に崩落し、大規模な火砕流が発生した。
- ・かつては火砕流の危険にさらされ、土石流が何度も流化した場所は、現在「ふかえ桜パーク」と呼ばれる公園として整備され、子どもや家族連れが訪れる憩いの場になっている。
- ・ふかえ桜パークには、災害復興を記念するモニュメントや石碑、災害復旧・復興事業の概要を解説する案内板が建てられている。



▲ふかえ桜パークの位置（南島原市深江町）



▲ふかえ桜パークの全景



▲復興モニュメント「博愛の塔」



▲雲仙岳噴火災害農地再生記念之碑



▲雲仙岳噴火災害農地復旧・復興事業の概要解説板

- ・火砕流が最も遠くまで到達した場所には、「火砕流最長到達点」とかかれた支柱と噴火当時の写真が掲載された解説板が建てられている。



▲火砕流最長到達点と解説板（背後に見える山が雲仙普賢岳）

### 【島原復興アリーナ：南島原市深江町】

- ・島原復興アリーナは、平成12年に復興のシンボルとして創られた多目的複合施設であり、長崎県下最大のフロアスペース（62m×43m）を有している。
- ・アリーナの敷地内には救助活動中に亡くなった消防殉職者の慰霊碑が建てられている。



▲島原復興アリーナの位置（南島原市深江町）



▲アリーナ敷地内に建つ「消防殉職者の慰霊碑」